

2027年3月期 第1四半期決算説明会資料

2026年8月14日(決算説明会は18日開催予定)
株式会社Smile Holdings
証券コード:7084

Smile Holdings



photo by DAISUKE SHIMA

※2026年6月開業 産後ケアホテル”Villa Mom 東京・有明”

【Smile Holdingsの第1四半期予算進捗：対前期比を上回るペースで極めて堅調に推移】

- ・Smile Holdingsの第1四半期は売上高、EBITDA、営業利益は過去最高

【WITHホールディングスについて：完全子会社化完了・第2四半期よりPL連結開始】

- ・2026年5月8日にWITHホールディングスの完全子会社化が無事に完了
- ・第2四半期より、WITHホールディングスの業績が当社のPL(損益計算書)に連結開始。
これにより、売上高および利益水準について倍増規模のスケールアップを見込む。



トピックス：産後ケアホテルVilla Mom東京 有明 オープン

Smile Holdings

- 産後ケアホテル Villa Mom 東京・有明が2026年6月22日にオープン
- 戦略的PRが奏功し、開業当初よりハイエンド層を中心に想定を上回る予約を獲得。
顧客満足度も極めて高く、新たな高収益モデルを確立

Villa Mom — プレップスクールで培った競合優位性を武器にハイエンド層モデルを確立

《特徴》

1. 【差別化要因】 専用設計の産後ケアホテル — 全17 室
↳医療・宿泊転用ではない、産後のために設計された専用建築
2. 【参入障壁】 助産師・保育士 24時間常駐と
グループ知見を活かした運営
↳グループ実績 児童9.5千人・職員3.5千人・184施設の運営知見
3. 【高付加価値化】 ミシュラン店シェフが作る1日5食の回復食
↳三つ星高級レストランで研鑽／完全オリジナルレシピで提供

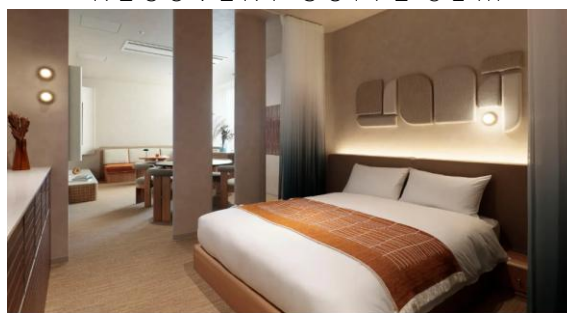
《物件概要》

- 名称：Villa Mom東京・有明
- 所在地：東京都江東区有明1丁目
- 部屋数：17室
- 敷地面積：1,524.01㎡
- 公式サイト：<https://villamom.com/>

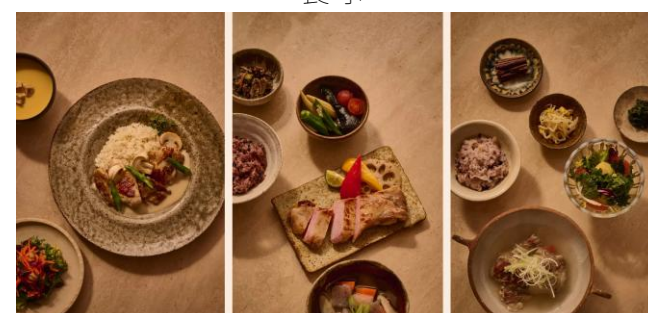
エントランス



RECOVERY SUITE 51㎡



食事



売上高

37.3 億円

3.4億円増、110%
前年同期比

EBITDA

3.3 億円

0.7億円増、131%
前年同期比

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

営業利益

1.4 億円

0.7億円増、206%
前年同期比

当期純利益

0.7 億円

106%
前年同期比

運営施設数

184 施設

前年同期比+103施設

Smile Project : 84施設
WITHグループ : 100施設

児童数

10,856 人

207%
前年同期比

Smile Project : 5,285人
WITHグループ : 5,571人

前提条件

- 貸借対照表：WITHグループを6月末基準で連結開始
- 損益計算書：今回の第1四半期開示の損益計算書はWITHグループは未連結
第2四半期よりWITHグループが連結対象となり、当社事業規模は倍増規模へと飛躍的に拡大

業績

- 保育園事業における充足率が一段と向上し、一方で費用コントロールを徹底した結果、
売上高、EBITDA、営業利益は第1四半期として過去最高を達成

新規施設・新規事業

- 2026年5月 WITHホールディングスを完全子会社化。事業領域が拡大し、
成長戦略の中核を担う
- 2026年6月 産後ケアホテル”Villa Mom 東京・有明”が開業。開業当初より好調に推移

- 第1四半期の業績は、WITHグループの数値を算入しない実績値
- 売上高3,739百万円(前年同期比110%)、営業利益145百万円(前年同期比206%)と、収益性が向上し、極めて好調に推移
- 当社の正常収益力を示す『2028年3月期の業績予想(※1)』に対し、計画シナリオどおりの推移を確認

※1:WITHグループの業績が12か月分寄与、一過性費用が発生しない

2026年6月12日開示「2027年3月期および2028年3月期の通期連結業績予想の公表に関するお知らせ」

(百万円)	2027年3月期				【正常収益力】 2028年3月期	
	1Q実績	成長率 (前期1Q比)	通期予想	成長率 (2026.3期比)	通期予想	成長率 (2026.3期比)
売上高	3,739	110%	25,500	176%	28,500	196%
EBITDA	332	132%	2,500	226%	3,300	298%
営業利益	145	206%	1,000	270%	1,500	405%
経常利益	109	149%	450	129%	1,100	314%
当期純利益	70	106%	221	100%	700	318%
備考	● WITH HD業績:9か月寄与 ● M&A一過性費用:4億円 (ファイナンス組成費用2億円・オフィス統合費用2億円)				● WITH HD業績:12か月寄与 ● M&A一過性費用:なし	

- 従来のSmile Holdingsのみ(WITHグループ未連結)で堅調なスタート。売上高進捗14.7%は『対前期比を上回るペース』

第1四半期の進捗率は14.7%ですが、これは以下の算定基準による特殊要因によるもので、計画通りの推移となっています。

◆ 通期予想(目標)：WITHグループを第2四半期から合算した業績

◆ 第1四半期実績(現状)：Smile Holdingsのみ(WITHグループ合算前)の業績

- 「第2四半期からのWITHグループ本格連結に向け、通期予想達成は高い確度へ」

次なる第2四半期からは、WITHグループの業績が連結され、売上・利益ともに倍増規模へ拡大が見込まれます。

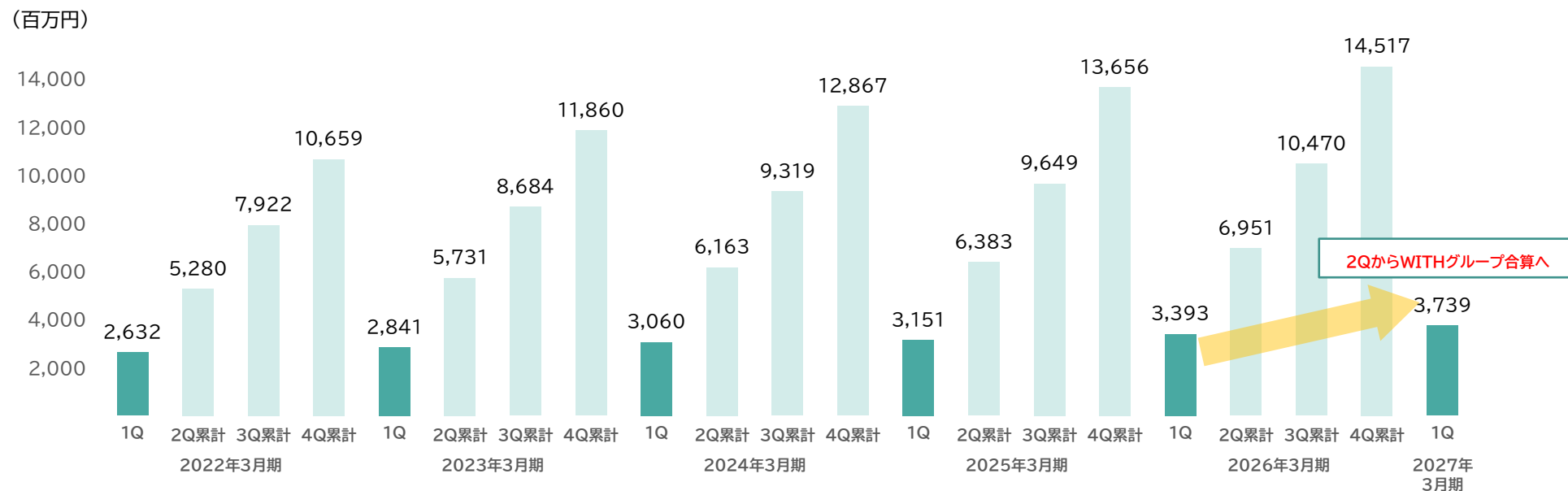
当社は「下期偏重の収益構造」が事業特性であり、通期予想の達成は十分に視野に入っており、盤石な進捗状況です。

(百万円)	2027年3月期 通期予想	2027年3月期1Q 実績	進捗率
売上高	25,500	3,739	14.7%
EBITDA	2,500	332	13.3%
営業利益	1,000	145	14.5%
経常利益	450	109	24.2%
当期純利益	221	70	31.7%

2027年3月期 第1四半期決算 売上高の推移

Smile Holdings

➤ 保育運営の収益基盤が一段と強化され、上場以来の**連続増収トレンド**を継続



過去
最高

3,739 百万円

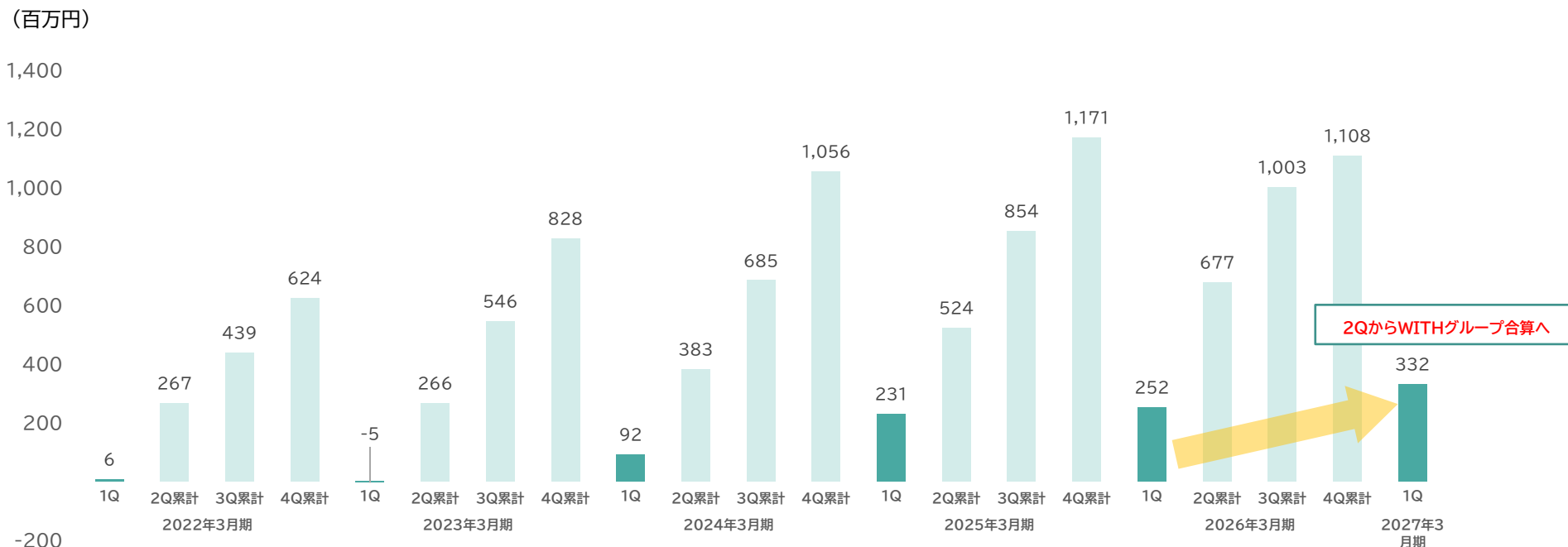
前年同期比 +345百万円(110.2%)

2027年3月期 第1四半期決算 EBITDAの推移

Smile Holdings

➤ 前年同期比+131%の大幅増。本業による強固なキャッシュ創出力を維持し

過去最高を更新



過去
最高

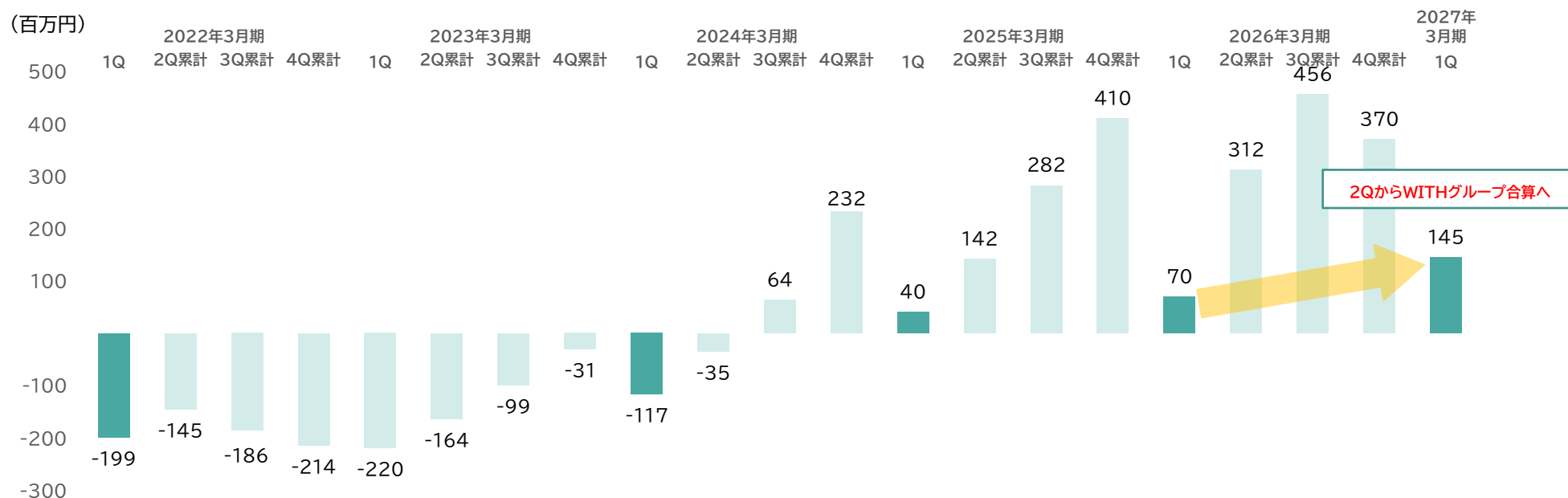
332 百万円

前年同期比 +79百万円(131.5%)

2027年3月期 第1四半期決算 営業利益の推移

Smile Holdings

➤ 利益率が劇的に改善し、前年同期比 206%(約2.1倍)の大幅増益。3期連続の黒字発進



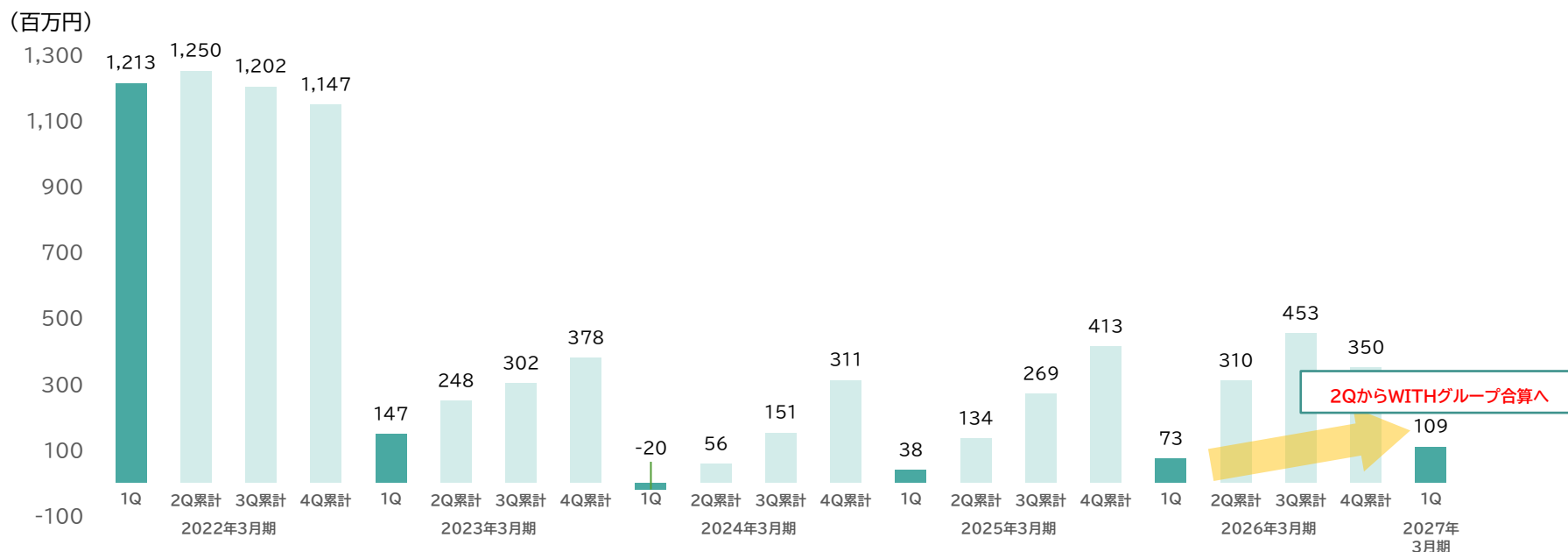
過去最高 145 百万円

前年同期比 +74百万円(206.1%)

2027年3月期 第1四半期決算 経常利益の推移

Smile Holdings

- 開設補助金への依存から『完全脱却』。前年比148.7%の大幅増益を達成し、強固な利益成長フェーズへ移行



参考:認可施設開設補助金(営業外収益)の推移

2021年3月期(通期):1,391百万円

2022年3月期(通期):1,418百万円

2023年3月期(通期):419百万円

2024年3月期(通期):100百万円

2025年3月期(通期):0百万円

2026年3月期(通期):0百万円

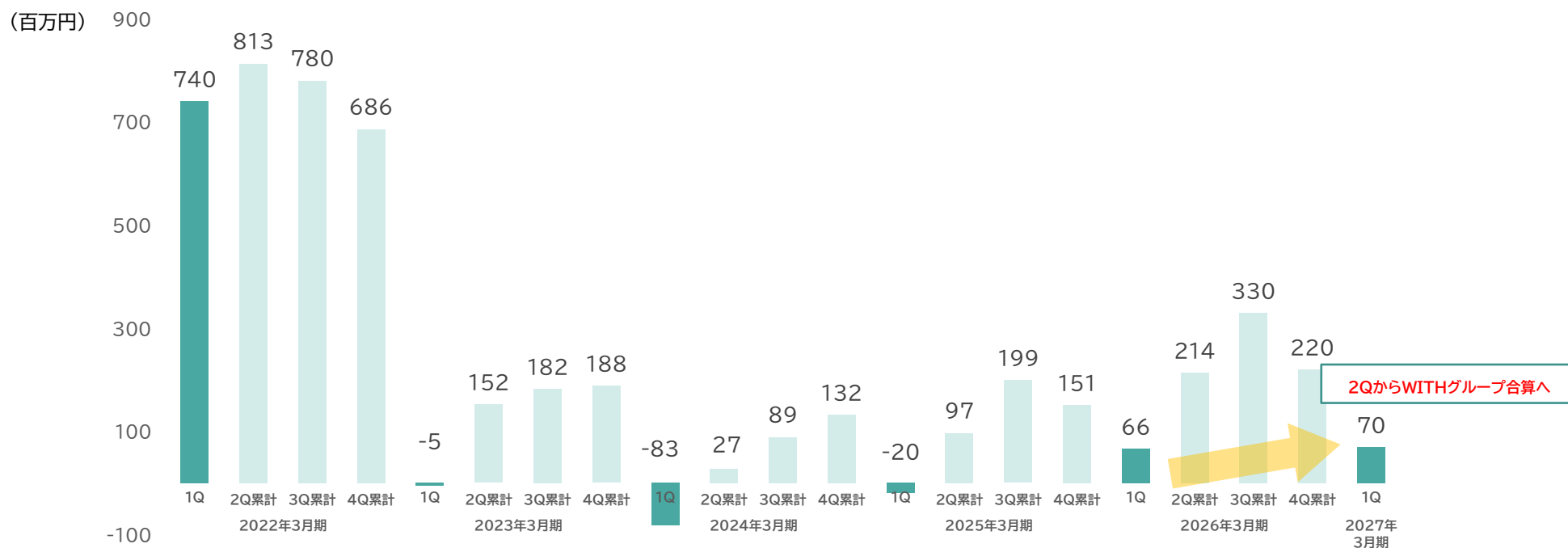
109百万円

前年同期比 +35百万円(148.7%)

2027年3月期 第1四半期決算 当期純利益の推移

Smile Holdings

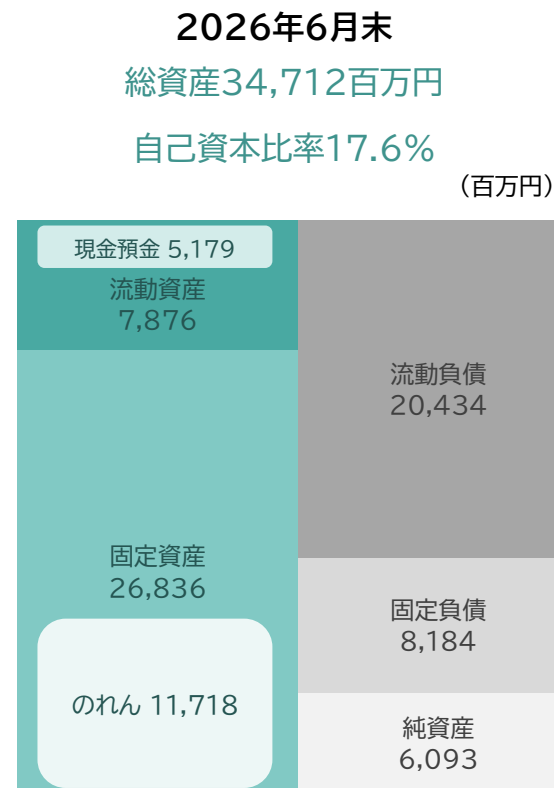
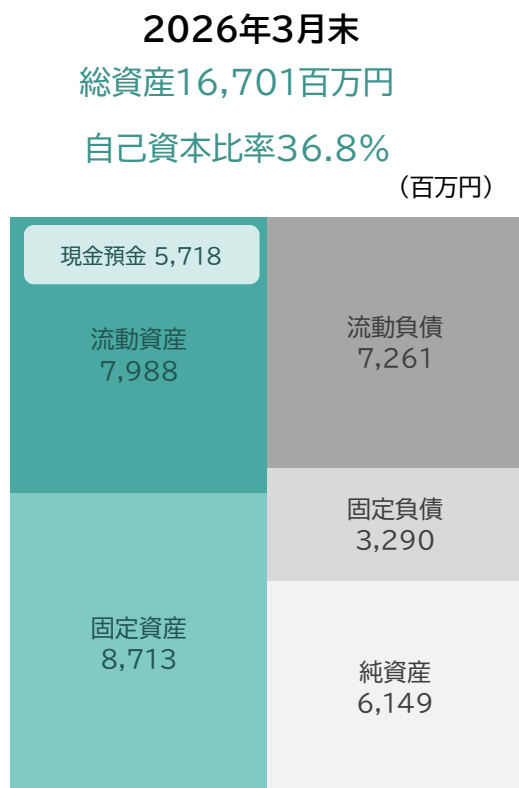
- 当期純利益は前年同期を上回り、第1四半期で進捗率31.7%を達成。
- 第2四半期からの「利益倍増フェーズ」に向けた万全の滑り出し。更なるコストコントロールを図り、利益の上積みを狙う。



70百万円
前年同期比 +4百万円(106.3%)

➤ WITHグループのB/S連結により、総資産は約347億円(約2倍)へ拡大

戦略的な資金調達(レバレッジ)の実行により事業規模は非連続な拡大を遂げました。51億円の潤沢な手元流動性を維持しており、財務の安全性は十分にコントロールされています。今回計上したのれん約117億円につきましても、手元の厚い資金力と今後のキャッシュ創出力によって確実なリターンへと繋げてまいります。



※ のれん計上額は現時点における暫定額であり、今後のPPA(取得原価の配分)手続きにより変動する可能性があります。

のれんの償却について

➤ 長期的な事業価値を反映した適切な償却計画

WITHグループが持つ強固な事業基盤と長期的な収益貢献を見込み、のれん償却期間を20年に設定

➤ 潤沢なキャッシュフローによる確実な財務規律の維持

WITHグループが創出するキャッシュフローにより、M&Aに伴う借入金返済(年間返済額約12億円)およびのれん償却費を十分にカバー。手元に残る潤沢なキャッシュを、次なる成長に再投資する好循環サイクルを確立済

のれんの減損について

のれんは、以下の理由から将来にわたり極めて毀損しにくい(減損リスクが極めて低い)資産であると評価しています。

➤ 保育事業は自治体からの委託事業でありインフラ型ビジネス

WITHグループの保育事業は自治体からの委託事業がベースとなるため、市況の悪化等に左右されない、極めて安定的な収益基盤と高い予見性を有している。

➤ 需要の底堅い「首都圏ドミナント展開」による優位性

展開エリアを、国内トップクラスの出生数を誇る首都圏(1都2県)に集中。特に主力の東京都においては出生数の反転(増加)傾向も確認されており、中長期的な保育ニーズが担保された極めて良質な事業環境にある。

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、資料作成時点における情報に基づき判断したものであり、市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。
- 実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご承知おきください。